

**平成27年度
阿見町在宅医療・
介護連携推進事業**

平成27年 12月 阿見町

今日お話しする内容

- 町の概況
- 町の課題と方向性
- 阿見町在宅医療・介護連携推進事業
- 中間まとめ

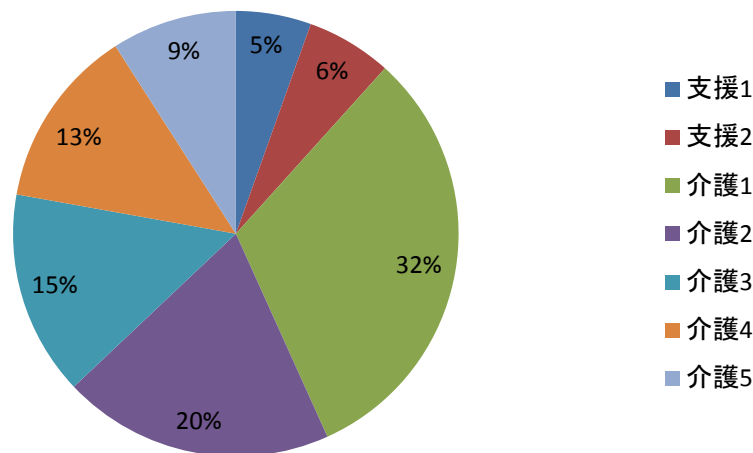


町の概況 (H27年4月1日現在)

○人口	48,007人
○65歳以上の人口	11,786人
○高齢化率	24.55%
○要介護認定率	13%

要介護認定者の内訳

	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
人数	82	93	473	295	223	196	136	1498



医療機関・介護事業所の状況

地域包括支援センター：1 箇所

＜医療機関＞

病院：4 箇所

一般診療所：17 箇所

介護療養病床：なし

歯科診療所：24 箇所

保険薬局：18 箇所

＜介護サービス事業所＞

居宅介護支援事業所：12 箇所

訪問看護事業所：2 箇所

介護老人福祉施設：2 箇所

介護老人保健施設：2 箇所

認知症対応型共同生活介護：5 箇所

小規模多機能型居宅介護：1 箇所

目標及び目標達成時の効果

現 状：訪問診療や訪問看護ステーションの
地域の資源が少ない。

⇒在宅で最期を迎えるための環境が整って
いない。

手 段：在宅医師等による講演会の開催
多職種参加による退院前カンファレンス
（モデル事業）の実施

目 標：在宅での生活を送るための手法の普及
在宅支援体制の効率化

大目標：「地域で暮らし続ける」という選択ができる
環境・体制の整備

取組状況①(土台作り:きっかけづくり)

○推進協議会

医師会、町内医療機関、歯科医師会、
薬剤師会、介護保険施設、
ケアマネ会、民生委員児童委員協議会、
保健所、地域包括支援センター、
社会福祉協議会、役場の代表者で構成

開催日 平成27年6月30日(火)
19:00~21:00

場 所 阿見町役場 3階 301会議室
参加者 13名

議題：H27事業計画について
事業の進め方の検討

町民への普及と、
退院前カンファレンスのモデル事
業を通して実践的な取り組みを



取組状況②(土台づくり事業:人づくり)

○第1回地域リーダー養成研修会

および意見交換会

開催日 平成27年8月19日(水) 19:00~21:00

場 所 阿見町役場 3階 301会議室

参加者 32名

プログラム

講演

リハビリテーション専門職種が在宅医療・介護で
何ができるか ～理学療法士の立場から～

講師 茨城県立医療大学 理学療法学科

浅川 育世 准教授

グループワーク

- ・ 症例検討

訪問リハビリの有効な活用を



取組状況②(土台づくり事業:人づくり)

○第2回地域リーダー養成研修会

および意見交換会

開催日 平成27年12月10日(木) 19:00~21:00

場 所 東京医科大学茨城医療センター
多目的ホール

参加者 73名

プログラム

講演

「地域包括ケア病棟について」

講師 東京医科大学茨城医療センター

神経内科 山崎 薫教授

グループワーク

「退院前カンファレンスの進め方」

講師 筑波メディカルセンター病院

退院調整看護師長 伊藤 章子氏

・ 事例検討



取組状況③(土台づくり:意識づくり)

○町民向けシンポジウム

2月14日(日)開催予定

テーマ

「かかりつけ医と病院の役割について」

- ・在宅医による基調講演
- ・多職種によるパネルディスカッション

取組状況④(仕組みづくり)

○多職種参加による退院前カンファレンス (モデル事業)の実施

東京医科大学茨城医療センターのモデルケースに多職種連携により取組み、継続的なものにするこゝで、在宅での生活をサポートする体制を強化する

○在宅医師等による講演会の開催

地域の課題に基づき、講演会を開催することにより、地域住民が在宅で暮らし続けるための手法について、広く周知していく

中間まとめ

○長期的な取組みが必要

事業の進捗状況の遅れが一因ではあるが、昨年度からの課題抽出作業により、地域の課題はある程度明らかになっているにもかかわらず、短期での成果を達成することが困難であった。

この後の取組みで、より多くの進捗を目指していく。

○かかりつけ医への意識付け

ほんとうに多職種の方々に事業に参加協力を得ているが肝心の医師の参加が少ない。

どうやって事業への賛同を得るか、在宅生活へのサポートに協力を得ていくのかを意識した取組みを行う。

今後の予定

1. 町民の理解を深めるシンポジウム
講演会の開催
2. 多職種間での同行研修
3. 共通書式の作成



ご清聴
ありがとうございました。

